

平成 22 年度化学物質の内分泌かく乱作用に関する公開セミナー
—ExTEND2005 から EXTEND2010 へ—
開催報告

1. 背景

化学物質の内分泌かく乱作用については、平成 22 年 7 月には、環境省の今後 5 年間の対応の方向性として「化学物質の内分泌かく乱作用に関する今後の対応— EXTEND2010 —」を取りまとめた。

これを受け、環境省では、これまで ExTEND2005 において実施してきた化学物質の内分泌かく乱作用に関する調査研究等の成果について、専門家や市民の方々へ情報提供を行うとともに、EXTEND2010 について広く知っていただくことを目的として、公開セミナーを開催した。

2. 概要

日時 : 平成 22 年 12 月 15 日 (水) 10:00~16:40
会場 : 東京大学山上会館大会議室 (2 階) 東京都文京区本郷 7-3-1
主催 : 環境省
一般参加者数 : 114 名 (応募 191 名)



3. プログラム

10:00 開会（環境省）

10:10 第1部 ExTEND2005における取組み

- ExTEND2005において取り組んだ研究の概要（環境省）
- 研究成果の報告
 - ・野生メダカの性分化異常に関わる基礎的情報の収集と解析
濱口 哲（新潟大学）
 - ・メダカの生殖内分泌系に及ぼす化学物質の内分泌かく乱作用の作用メカニズムに関する研究 長濱 嘉孝（自然科学研究機構基礎生物学研究所）
 - ・核内ホルモン受容体による転写調節における環境化学物質の作用機構
岩崎 俊晴（群馬大学）
 - ・哺乳類を用いた毒性実験の結果に影響を及ぼす実験動物の遺伝的要因解析
青山 博昭（財団法人残留農薬研究所）
 - ・都市排水に由来したエストロゲン類の汚染と動態 田中 宏明（京都大学）

13:30 第2部 EXTEND2010と内分泌かく乱作用に関する取組みの今後の方向性

- 化学物質の内分泌かく乱作用に関する今後の対応 EXTEND2010（環境省）
- 生物の試験法開発に関するこれまでの成果と今後の課題
鱸迫 典久（独立行政法人国立環境研究所）
- 生物に対する内分泌かく乱作用に関する調査研究の動向と対応の方向性
井口 泰泉（自然科学研究機構基礎生物学研究所）
- ヒトに対する内分泌かく乱作用に関する調査研究の動向と対応の方向性
遠山 千春（東京大学）

15:25 パネルディスカッション

コーディネーター

北野 大（明治大学）

パネリスト

有田 芳子（主婦連合会）

井口 泰泉（自然科学研究機構基礎生物学研究所）

庄野 文章（社団法人日本化学工業協会）

鱸迫 典久（独立行政法人国立環境研究所）

遠山 千春（東京大学）

早水 輝好（環境省）

16:40 閉会

4. 内容

- (1) 第1部では、環境省より ExTEND2005 において取り組んだ研究の概要を説明し、主な研究成果として、5名の研究者から成果の概要が報告された。
- (2) 第2部では、環境省より「化学物質の内分泌かく乱作用に関する今後の対応 EXTEND2010」の概要を説明し、3名の研究者から生物の試験法開発に関するこれまでの成果と今後の課題、生物に対する内分泌かく乱作用に関する調査研究の動向と対応の方向性及びヒトに対する内分泌かく乱作用に関する調査研究の動向と対応の方向性が紹介された。
- (3) パネルディスカッションでは、次に示した3つのテーマについて議論を進めた。
- 化学物質の内分泌かく乱作用に関するこれまでの取組によって得られた成果
化学物質の内分泌かく乱作用が生物に作用するメカニズムや、人の健康や野生生物などに及ぼす影響についてわかってきたこと、化学物質の内分泌かく乱作用の有無を判断するための生物試験法の開発状況などについて、パネラーよりご報告、ご意見をいただいた。
 - 化学物質の内分泌かく乱作用に関する情報を社会で共有するための手段等
これまでの取組によって、化学物質の内分泌かく乱作用に関する情報が蓄積されてきた。これらの情報は、専門家だけではなく、一般市民や企業の方々にとっても重要な情報であり、社会として適切に共有することが大切である。こうした観点から、得られた情報を共有することの意義や方法について議論を行った。
 - 今後の化学物質の内分泌かく乱作用に対する取組み
複数の化学物質に同時にばく露したときの複合的な影響について考慮することや、生物種による影響の現れ方の違いを比較していくことの必要性、重要性等が指摘された。



5. アンケート

出席者より提出されたアンケートの集計結果を添付した。(別紙参照)

6. 平成 23 年度の予定

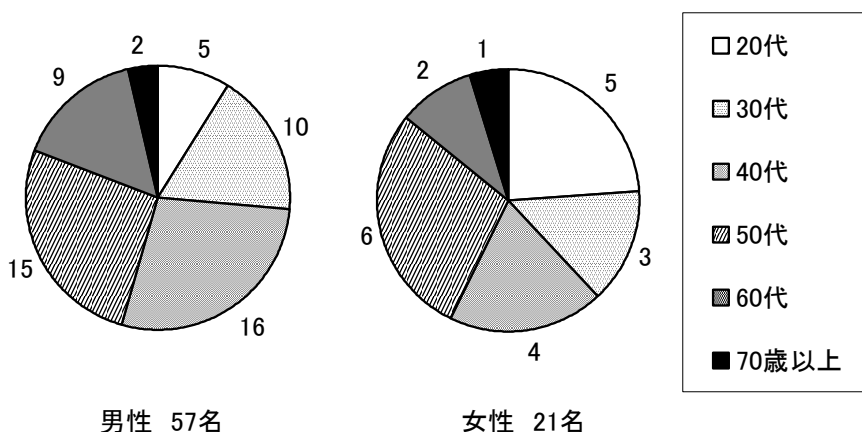
平成 22 年度の結果を踏まえ、内容等について一部見直しを行った上で、平成 23 年度も下記の通り公開セミナーを開催する予定。

日時 : 平成 23 年 12 月 3 日 (土) 10:00~16:30 (予定)
会場 : 未定 (都内)
主催 : 環境省
参加人数 : 200 名程度

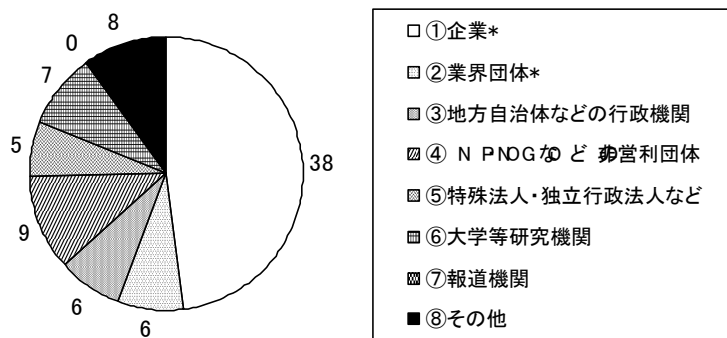
平成 22 年度 化学物質の内分泌かく乱作用に関する公開セミナー
- ExTEND2005 から EXTEND2010 へ -
アンケート集計結果

I. 貴方の属性に関する以下の質問について、該当する番号に○を付けてください。(回答数 78)

- Q1 あなたの性別を教えてください。
Q2 あなたの年齢を教えてください。



Q3 ご所属を以下からお選びください (回答数 78)



*企業と業界団体という重複回答あり

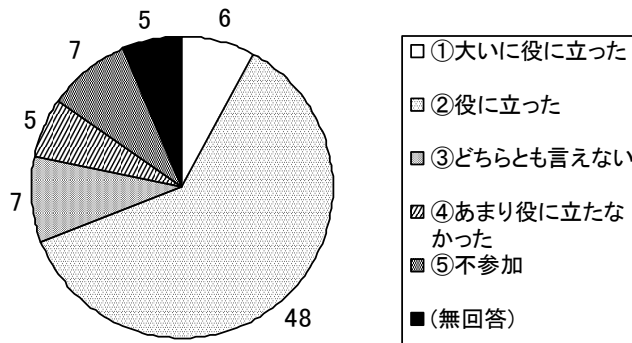
⑧その他の回答

個人・一般人：3、生協：1、受託試験機関：1、調査研究：1、空白：2

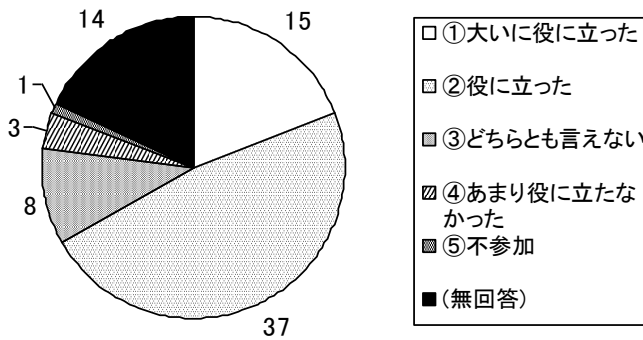
II. 今回開催したセミナーに関する以下の質問について、該当する番号に○を付けて下さい。

Q4 各セッションの満足度をお答え下さい

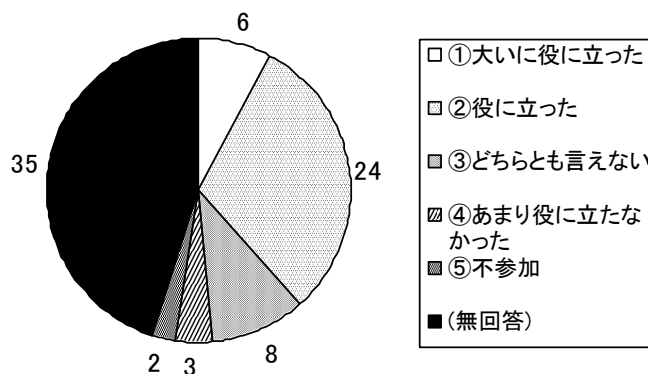
Q4-1 第1部 ExTEND2005における取組 (回答数 73 無回答 5)



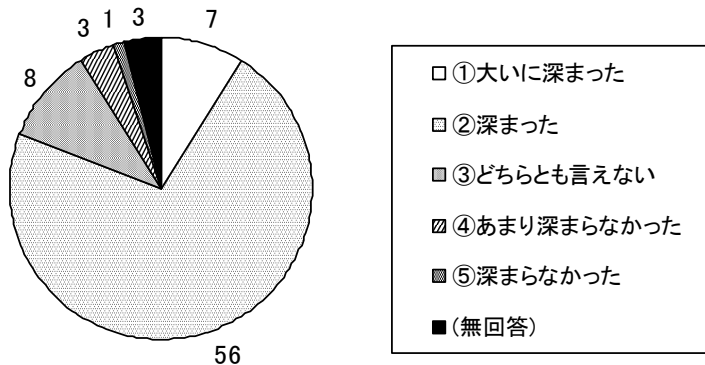
Q4-2 第2部 EXTEND2010と内分泌かく乱作用に関する取組の今後の方向性 (回答数 64 無回答 14)



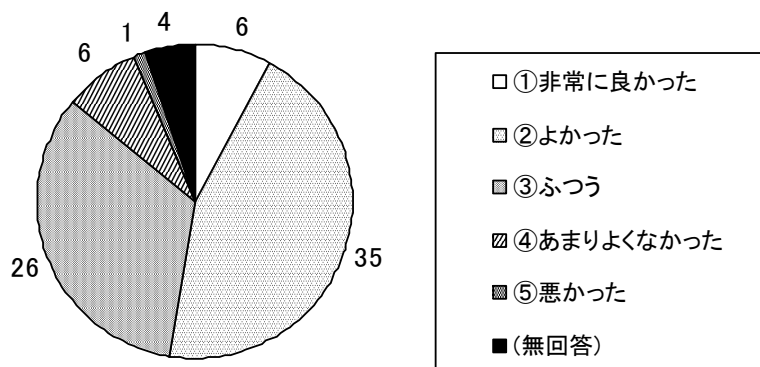
Q4-3 パネルディスカッション (回答数 43 無回答 35)



Q5 今回開催したセミナーで、化学物質の内分泌かく乱作用への研究の必要性や今後の対応のあり方について理解は深まりましたか。(回答数 75 無回答 3)



Q6 今回のセミナーの運営や対応はいかがでしたか。(回答数 74 無回答 4)



どのような点が

非常に良かった

- ・セミナーに関係ない質問が出たときにきちんと断ったこと (1)

よかった

- ・時間管理 (3)
- ・会場選定・会場の設備等 (2)
- ・行政、大学、消費者等、様々なステークスホルダーが参加 (1)

あまりよくなかった

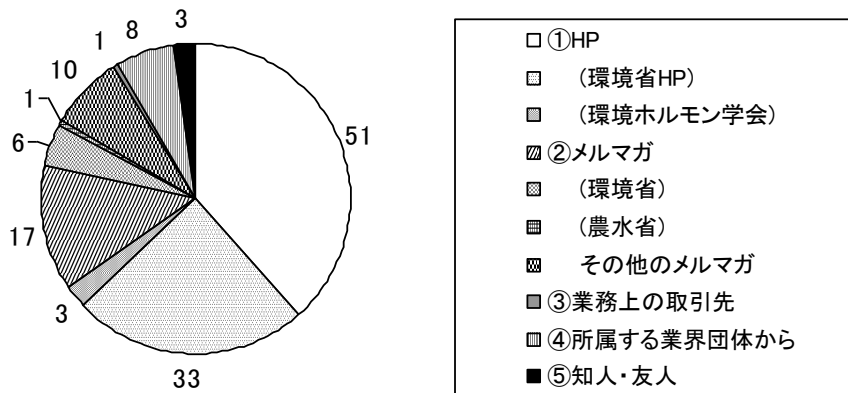
- ・会場選定悪い、会場が暗い、会場が分かりにくい (3)
- ・希望者全員の参加を計画すべき (1)
- ・EXTEND2010 についての具体的な説明が少なかった。現在、日本で起こっている生態系の問題について情報が少なかった。(1)
- ・連絡が遅かったので受理されているのか心配だった。(1)

悪かった

- ・余ったパンフレットを余分にくれないのが不満 (1)

III. セミナーの開催に関する以下の質問について、該当する番号に○を付けてください。

Q7 本セミナーを知った経緯を以下からお選び下さい。(回答数 78)



*重複回答あり (HP+所属する業界団体から：1、HP+メールマガジン：1)

Q8 今回のようなセミナーについて、必要だと思いますか。(回答数 74 無回答 4)

①はい	72
②どちらでもいい	2*
(無回答)	4
総計	78

*「どちらでもいい」の中に「内容による」という回答が1あり

Q9 今後、このようなセミナーが開催される場合、どのような内容を希望されますか。(回答数 78)

①最新の知見	52
②行政の取り組み	47
③専門家によるパネルディスカッション	27
④その他	9

*重複あり

④その他の記述内容

- ・ 個々の研究ではなく世界的な流れ「複合作用・U字作用は現在どう考えられているかなど」を説明して頂けたら有難い
- ・ 規制についてのご説明を聞きたいです。
- ・ ①は②に起因するだろうし、②は市町村ならNPOで良いし、国なら①しか言わないだろうし、③では重要なことを言うも言わんも、パネラーの意志。
- ・ 細かい知見についての発表よりは、review level?の内容がよい。
- ・ 今回のように複合的なセミナーがよい。
- ・ もっとフロアとディスカッションできる内容で!
- ・ 国内外の法規制動向、海外の行政の取り組みについても詳しく説明頂きたい。
- ・ 今後の方向性
- ・ 新聞などの報道発表